

牛久：学校周辺に見る自然

第18号 ひたち野うしく小

2012年7月19日発行

＜ 梅雨の水辺公園 ～動物のすがたを観察しました。その⑤. トンボ ＞



シオカラトンボのオスに似ているが、複眼の色や胸部の模様などで見分けられるコフキトンボのオス。



ひたち野うしく小3年生との水辺公園シリーズ。今回は、トンボのなかま。

皆さん、「シオカラトンボ～」と叫んでいましたが、よく見てみましょう。ちょっと小型でずんぐりしています。よく見ると、複眼(ふくがん)の色も胸部(きょうぶ)の模様も違いますね。体に白い粉がふいてカビのようにも見えます。これは、水辺公園ではよく見かける、コフキトンボのオス。この日は見みせんでしたが、シオカラトンボのオスも普通に見られますので、くらべてみましょう。

さて、こちらがシオカラトンボ。ただしメスです。オスとは全然違って見えますね。でも体の色は違うけれど、全体の形や胸部の模様などはとてもよく似ています。シオカラトンボに限らず、交尾をしているトンボを見つけたら、よくながめてみましょう。「別のトンボと思っていたのに、同じ種類だったのか!」と思うことがけっこうあると思いますよ。別名「麦わらトンボ」ともよばれる、シオカラトンボのメス。



左は、お友だちがつかまえて、虫かごに入れたナツアカネ。そして右は、これもよく見かけたノシメトンボ。そしてもう1種、アキアカネが「赤とんぼ」の代表ともいえる仲間ですが、まだ出てきてないようでした。それぞれの見分け方は、22年度44号を参考にしてください。【理科支援員：宮内】



「赤とんぼ」の代表ともいえる、ナツアカネ(左)とノシメトンボ(右)。